

飯塚岸屋敷遺跡

—道路築造に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2019

高崎市教育委員会
有限会社毛野考古学研究所

飯塚岸屋敷遺跡

—道路築造に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2019

高崎市教育委員会
有限会社毛野考古学研究所



例　　言

1. 本書は、道路築造に伴う飯塚巣屋敷遺跡（市遺跡番号 747）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 「飯塚巣屋敷遺跡」は、群馬県高崎市飯塚町字巣屋敷 706 番地 1・707 番地に所在する。
3. 発掘及び整理調査の期間・発掘調査の面積は次のとおりである。

【発掘調査期間】 平成 30 年 9 月 18 日～平成 30 年 9 月 28 日
【整理調査期間】 平成 30 年 9 月 29 日～平成 31 年 3 月 25 日
【発掘調査面積】 260m²
4. 発掘及び整理調査は、開発事業者である土地所有者、高崎市教育委員会、有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
5. 発掘及び整理調査に関わる経費は土地所有者の負担による。
6. 発掘及び整理調査は、常深尚（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
7. 本書の編集・執筆については、高崎市教育委員会文化財保護課と常深が協議して行い、第 1 章を高崎市教育委員会文化財保護課、第 2～6 章を常深が執筆した。
8. 道構及び遺物の写真は常深が撮影し、空中写真は小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が撮影した。
9. 調査資料は、一括して高崎市教育委員会で保管している。
10. 発掘及び整理調査の参加者は、以下のとおりである。

（発掘調査） 岡庭秋男　鬼形敦子　清水隆二　永井述史　橋元裕児　松井昭光
（整理作業） 阿原智子　齋藤真琴
11. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関にご協力賜わった。記して感謝申し上げる次第である（敬称略、順不同）。

カネコハウス㈲ 積水ハウス㈱ ㈲明総

凡　　例

1. 採図中に使用した方位は、国家座標（IX系）の北を表す。座標軸は世界測地系である。
2. 本書ではテフラの呼称として次の記号を用いた。

As-A : 1783（天明三）年噴出の浅間 A テフラ
As-B : 1108（天仁元）年噴出の浅間 B テフラ
As-C : 3 世紀終末から 4 世紀初頭噴出の浅間 C テフラ
Hr-FA : 6 世紀初頭噴出の榛名ニッ岳湊川テフラ
3. 道構及び遺物実測図の縮尺は次のとおりである。

【道構】 全体図…1/400　水田跡…1/200・1/40　溝…1/200
【遺物】 土器…1/3
4. 遺物番号は、実測図・観察表・写真図版とともに共通である。
5. 本文・土層断面図・土層注記中のローマ数字は基本土層、算用数字は道構内堆積土の層番号を表す。
6. 土層及び遺物の色調は『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄著　㈱日本色彩研究所）を使用した。

目 次

卷頭図版・例言・凡例・目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と経過	5
第1節 調査の方法	5
第2節 調査の経過	5
第4章 基本層序	5
第5章 遺構と遺物	6
第1節 調査の概要	6
第2節 水田跡	6
第3節 溝	8
第6章 調査成果	10
抄録・写真図版・奥付	

挿図目次

第1図 調査区域図	1	第6図 調査区全体図及び水田跡平面図	7
第2図 飯塚巣屋敷遺跡位置図	2	第7図 1号溝平面図・断面図	8
第3図 飯塚巣屋敷遺跡周辺の遺跡分布	3	第8図 出土遺物図	9
第4図 基本層序模式図	5	第9図 飯塚巣屋敷遺跡周辺の中世城館	10
第5図 水田跡断面図	6		

表目次

第1表 周辺の遺跡一覧表	4	第2表 出土遺物観察表	9
--------------	---	-------------	---

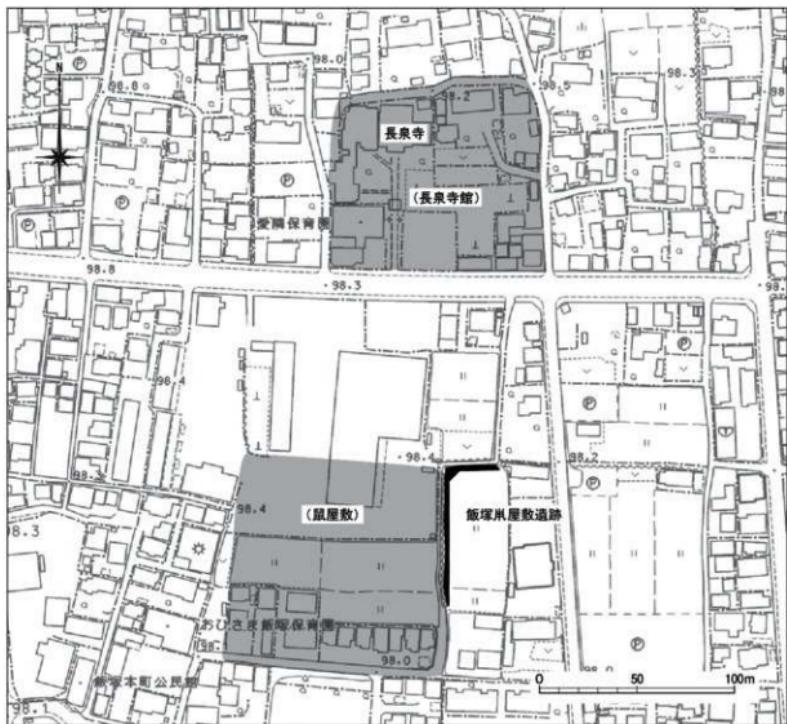
写真図版目次

卷頭図版 調査区全景(空撮、南東から)		水田跡6号畦畔全景(東から)	
1号溝及びAs-B下水田跡(西から)		水田跡7号畦畔全景(東から)	
P L. 1 調査区遠景(空撮、西から)	P L. 3	水田跡1号畦畔上層断面(東から)	
調査区全景(空撮、左が北)		水田跡7号畦畔土層断面(東から)	
P L. 2 水田跡1~3号畦畔全景(北から)		水田跡下土層断面(東から)	
1号溝全景(東から)		出土遺物(1号溝出土馬銜)	
水田跡4号畦畔全景(東から)		出土遺物(1号溝及び水田跡)	
水田跡5号畦畔全景(東から)			

第1章 調査に至る経緯

平成 29 年 12 月、土地所有者から、飯塚町において計画している共同住宅新築および宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である 16 B 04 遺跡に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 12 月 12 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、翌年 1 月 11 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、平安時代の水田跡と水田に伴う畦畔を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「飯塚鼠屋敷遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 30 年 8 月 20 日に土地所有者と民間調査機関有限会社毛野考古学研究所との間で契約を締結、また同日に土地所有者・有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。



第1図 調査区域図（高崎市発行『高崎市都市計画基本図』1/2500）

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

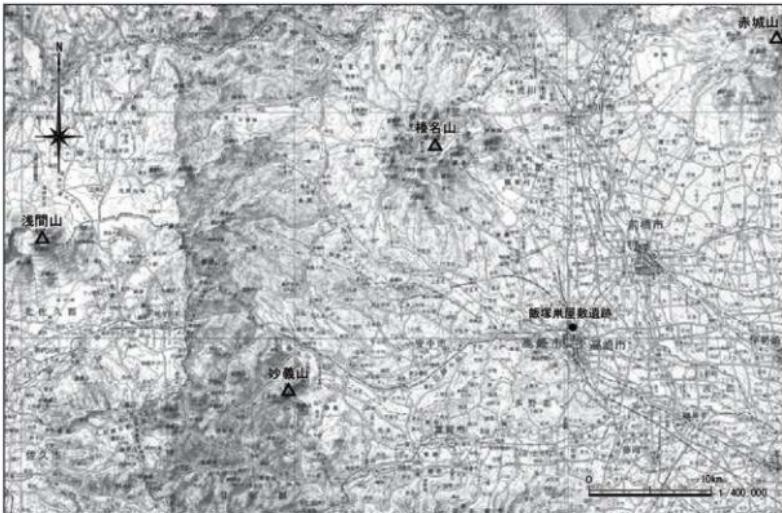
第1節 地理的環境

飯塚牟屋敷遺跡は群馬県南西部、高崎市飯塚町に所在し、JR 北高崎駅の北 400m 付近に位置する。本遺跡周辺は高崎台地と呼ばれる台地上にある。高崎台地は、約 2.1 万年前の浅間山噴火に伴う前橋泥流堆積物を基盤とする前橋台地の西方、烏川と井野川に挟まれた地域を指し、前橋泥流堆積物の上位には約 1.1 万年前に堆積した高崎泥流が堆積している。台地上は小河川が網目状に流れ、微高地と後背湿地が入り組んだ地形となる。本遺跡は、北東に広がる微高地の縁辺を北西から南東へと延びる後背湿地の北東岸にあり、標高は約 98m である。

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺では旧石器時代から縄文時代の遺跡は顕著でなく、わずかに下小鳥遺跡（33）で縄文中期の遺物が出土している。弥生時代には遺構・遺物が確認されるようになり、稲荷町 I 遺跡（28）で中期の住居を、問屋町西遺跡（32）では竪見町式土器を伴う遺構を検出している。本遺跡北側の微高地にある飯塚貝沢塚添遺跡（2～4）や、本遺跡西側の微高地にある上並榎屋敷前遺跡（12）、上並榎南遺跡（13）では中期後半～後期の堅穴住居・土坑・溝・包含層を検出している。As-C 下水田跡は並榎北遺跡（15・16）、上並榎下松遺跡（18・19）、上並榎御料所遺跡（23）で検出され、さらに、並榎北遺跡では As-C 下水田跡より古い水田跡の存在が指摘されている。

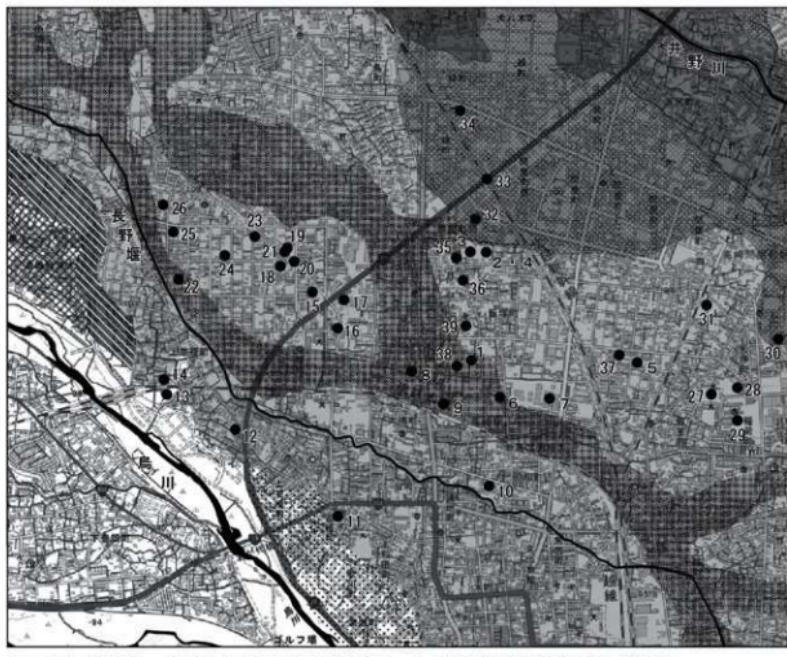
古墳時代の集落は、下小鳥遺跡（33）で前期の住居を検出したほか、烏川左岸の微高地にある並榎台原遺跡（11）、上並榎屋敷前遺跡（12）、本遺跡東側の微高地にある稲荷町 I 遺跡（28）で後期の住居が確認されている。Hr-



第2図 飯塚牟屋敷遺跡位置図（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000 を 50%縮小）

FA やこれに伴う泥流下の水田跡は、本遺跡に近接する飯塚雁田Ⅱ遺跡（8）や飯塚大道東遺跡（9）のほか、並榎北遺跡（15・16）・並榎町Ⅰ遺跡（17）・上並榎下松遺跡（18～21）・上並榎御料所遺跡（23・24）で「極小区画水田」を検出している。本遺跡北方にある問屋町西遺跡（32）では、Hr-FA 下水田跡と Hr-FA 降下以後間もない時期の大型水路が検出されている。古墳は、5世紀後半の大型前方後円墳である上並榎稻荷山古墳（22）が単独で築造されるほか、筑繩遺跡群（26）の円墳などがある。

奈良・平安時代の集落には、上並榎南遺跡（13）、筑繩遺跡群（26）、漆紙文書を出土した下小鳥遺跡（33）、飯塚十二前遺跡（37）などがあり、さらに貝沢・島遺跡（31）では古代瓦が、本遺跡に近接する飯塚村内遺跡（36）ではコップ形須恵器の出土が知られる。As-B 下水田跡は、本遺跡と同じ後背湿地に位置する飯塚西金井遺跡（6）・飯塚雁田Ⅱ遺跡（8）・飯塚大道東遺跡（9）を始め、本遺跡東方の微高地上の飯塚大苗代遺跡（5）・飯塚西金井Ⅱ遺跡（7）・飯玉Ⅰ・Ⅱ遺跡（27）・貝沢天神遺跡（30）、井野川低地帯の問屋町西遺跡（32）・下小鳥遺跡（33）・大八木水田遺跡（34）など、広範囲に調査されている。大八木水田遺跡（34）や、本遺跡西方の微高地上の並榎北遺跡（15・16）・並榎町Ⅰ遺跡（17）・上並榎下松遺跡（18～21）・上並榎御料所遺跡（23・24）では、条里地割に沿う大畦畔などが検出され、条里制水田の実態が明らかになってきている。



第3図 飯塚廐屋敷遺跡周辺の遺跡分布（国土地理院発行 1/25,000 地形図「高崎」・「前橋」・「下室田」・「富岡」）

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

中世には、和田氏の居城である和田城が15世紀中頃から16世紀にかけて存続し、並榎城（14）・上飯塚城（35）、下之城・大類城といった支城が四間に築かれた。本遺跡に近い上飯塚城（35）は、長野氏と対峙する和田氏の北の備えとして、永禄年間頃に築城されたとされる。飯塚堀添遺跡遺跡（2～4）では、上飯塚城の外堀・内堀と想定される溝や、掘立柱建物・井戸などが確認されている。また本遺跡の西には鼠屋敷（38）、北には長泉寺（39）が近接しており、いずれも上飯塚城と同時期の館跡とされている。

近世は、As-A下の水田跡やAs-Aの処理坑が東町遺跡や栄町遺跡などで確認されている。本遺跡でも断面観察でAs-Aを充填した溝状構造を検出している。

引用・参考文献 山崎一 1979『群馬県古城址の研究 補遺篇上巻』、高崎市 1996『高崎市史資料編3 中世I』

No.	遺跡名	主な時代・遺構・遺物	主な文献
1	飯塚廻廊敷道跡	B水田、中世溝	市教委(4)小令431集 2019「飯塚廻廊敷道跡」
2	飯塚・貝沢堀添遺跡	衛生小町添半包柵・空穴・土坑・溝、小便井口・土坑・溝	市教委第284集 2011「飯塚・貝沢堀添遺跡」
3	飯塚貝沢堀添跡2	衛生小町添半包柵、中世城塙(上飯塚城跡内堀)	市教委第359集 2016「飯塚貝沢堀添跡2」
4	飯塚貝沢堀添跡3	衛生小町添・後期住居跡、中世掘立・溝、井戸・土坑	市教委(4)小令365集 2019「飯塚・貝沢堀添跡3」
5	飯塚大字代遺跡	B水田	市教委合集67集 1996「飯塚大字代遺跡」
6	飯塚西金井遺跡	B水田	市教委、市調査会 1994「飯塚西金井遺跡」
7	飯塚西金井Ⅱ遺跡	B水田、中世土坑	市教委第213集 2007「飯塚西金井Ⅱ遺跡」
8	飯塚削込Ⅱ遺跡	F/A水田、B水田	市教委第186集 2003「飯塚削込Ⅱ遺跡」
9	飯塚大字東遺跡	F/A洪水層下水田、B水田	市教委・調査会第54集 1996「飯塚大字東遺跡」
10	昭和町1丁遺跡	B水田	市教委、市調査会 1992「昭和町1丁遺跡」
11	笠楼白石遺跡	古墳後期住居	市教委第112集 1991「高崎市内進藤城藏文化財緊急発掘調査報告書」
12	上並櫻原敷田遺跡	衛生小町添・後期土坑・後期住居	市調査・調査会 1993「上並櫻原敷田遺跡」
13	上並櫻原遺跡	衛生小町添・後期土坑・土坑・住居、古墳中期溝、平安住居、中世世帯溝、溝・柱穴群、井戸・土坑墓	群文文はか 1985「上並櫻原遺跡」
14	並桜城址		
15	並桜北遺跡	C以前水田、C水田、FA水田、B水田	市教委第84集 1988「並桜北遺跡」
16	湖柳江・Ⅱ・Ⅲ・V遺跡	C以前土坑、C水田、FA水田、B水田、中世溝・土坑、近世土坑	市教委第144集 1995「並桜北Ⅱ・Ⅲ・V・V遺跡」
17	並桜町1丁遺跡	FA水田、B水田	市教委合集83集 2002「並桜町1丁遺跡」
18	上並櫻原下松遺跡	C水田、FA水田、B水田	市教委第110集 1991「上並櫻原下松遺跡」
19	上並櫻原下松Ⅱ遺跡	C水田、FA水田、B水田	市教委第124集 1993「井戸高崎遺跡・上並櫻原下松Ⅱ遺跡・石脇櫻原活用Ⅲ遺跡・飯塚東金井遺跡・高崎文化財振興事業について」(企画調査概要)
20	上並櫻原下松遺跡3	C混水田、FA水田、B水田、中黄溝・ピット	市教委第285集 2011「上並櫻原下松遺跡3」
21	上並櫻原下松遺跡4	FA水田、B水田	市教委合集375集 2016「上並櫻原下松遺跡4」
22	上並櫻原荷山古墳	前方後円・全長約120m、舟形石棺	市調査会第46集 1995「上並櫻原荷山古墳」
23	上並櫻原御所町遺跡	C水田、FA水田、B水田	市教委第108集 1990「上並櫻原御所町遺跡」
24	上並櫻原御所町Ⅱ遺跡	C混水田、FA水田、FP水田、B水田	市調査会合集65集 1997「上並櫻原御所町Ⅱ遺跡」
25	上並櫻原八日田遺跡	B水田、近世溝	市教委第198集 2005「上並櫻原八日田遺跡」
26	筑縄堀添群	円溝、方形堀溝羣、平安住居、B水田	市教委第50集 1985「筑縄堀添群」
27	坂王1・2遺跡	B水田	市教委第161集 1999「坂王1・2遺跡」
28	昭和町1丁遺跡	衛生小町添跡、古墳後期住居	市教委 1992「昭和町1丁遺跡」
29	昭和町1丁遺跡	古墳遺構・埴輪、中世土坑、A下水路と伴作窓	市教委第142集 1996「昭和町1丁遺跡」
30	日光・天神遺跡	B水田、B以降溝	市教委第272集 2010「日光・天神遺跡」
31	日光・烏島跡	古代溝・溝、中世土坑・ピット	市教委合集331集 2014「日光・烏島跡」
32	阿闍利河内遺跡	衛生小町添跡地、FA水田、FA後の水路、B水田	市教委第28集 1987「高崎市内進藤城藏文化財発掘調査報告書」
33	下小鳥遺跡	調文中期遺跡・古墳前期住居・奈良平安住居・漆紙文書、B水田	群文文はか 1991「下小鳥遺跡」
34	大八木水田遺跡	B水田	市教委第12集 1959「大八木水田遺跡」
35	上並坂堀尾	被葬(瓶・土壺)、相田瓦漬塗、水井噴塗城塹	高崎市 1979「春鳥町古城址の研究」被葬品上巻 高崎市 1994「佐藤高崎史記」資料編3中世1
36	坂堀内遺跡	古墳時代墓、古代住居・ピット、中世溝・土坑・ピット	市教委合集411集 2019「坂堀内遺跡」
37	飯塚十二前遺跡	B水田、奈良平安住居	高崎市 1996「飯塚十二前遺跡」
38	鼠屋敷	方形状(複数)、16世紀か	高崎市 1996「新編高崎市史」資料編3中世1
39	長泉寺	方形状(複数)、16世紀か	高崎市 1996「新編高崎市史」資料編3中世1

A=AA-A、B=AB-B、C=Aa-C、F=Af-F、P=Px-P、市教委=高崎市教育委員会、市調査会=高崎市調査委員会、群文文=公益財團法人群馬県蔵文庫文化財調査委員会

第1表 周辺の遺跡一覧表

第3章 調査の方法と経過

第1節 調査の方法

表土掘削は重機を使用し、As-B（VI層）上面まで掘削した。VI層上面ではAs-B降下以降の溝を、同所以外ではAs-B下の水田跡を検出した。遺構の測量は、断面図を手実測（縮尺1/20）、平面図を電子平板で行った。遺構の写真撮影は、35mmモノクロ・カラーリバーサルのフィルムカメラとデジタルカメラを併用した。遺跡全景の空中写真はドローン（DJI社 Phantom 2 Vision+）を使用して撮影した。

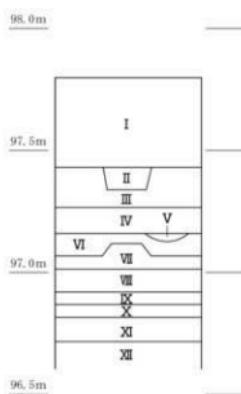
遺物注記は手書きにて行い、「747 SD01 No 1」のように注記した。遺物の写真撮影はデジタルカメラ（Nikon D5500）を使用した（JPEG、RAW）。遺構図・遺物実測図・報告書作成とともにAdobe®Creative Suite®でデジタルトレース・編集等を実施し、印刷所にはPDF型式（X-1a;2001）で入稿した。

第2節 調査の経過

- 【9月】 18日：調査区域の設定と発掘器材の搬入。安全柵の設置。表土の重機掘削を行う。19日：重機掘削の終了。水田跡の畦畔と溝を検出す。20日：水田跡の調査を開始する。21日：溝の調査を開始する。27日：水田跡及び溝の調査を終了する。遺構測量を行う。28日：遺跡の空中写真撮影を行う。遺構測量を終了。高崎市教委文化財保護課による現地終了確認。下層のトレンチ掘削を行った後、発掘器材を撤収。
- 【10～12月】 出土遺物の洗浄・注記、報告書掲載遺物の写真撮影、遺構全体図の編纂、遺構写真図版作成を行う。
- 【1・2月】 報告書掲載遺物の実測・トレース、遺構図版作成、報告書原稿執筆を行う。
- 遺物図版作成、報告書編集を行う。報告書データを入稿し、校正を行う。
- 【3月】 報告書の印刷製本を行う。成果品の準備を行い、報告書とともに納品する。

第4章 基本層序

- I層 暗灰色土。表土。
- II層 灰黄褐色土。As-A多量に含む。
- III層 暗灰色土。やや粘土質。As-B少量含む。
- IV層 灰黄褐色土。砂質。As-B少量含む。
- V層 灰褐色砂質土。As-B多量に含む。
- VI層 As-Bの一次堆積層。
- VII層 黒色粘質土。As-B下水田跡の耕作土。
- VIII層 明褐灰色粘質土。Hr-FAの小ブロック混入。
- IX層 Hr-FAの二次堆積層。
- X層 灰色粘質土。As-C少量含む。
- XI層 黑色粘質土。As-C多く含む。
- XII層 黑色粘質土。As-C含まない。



第4図 基本層序模式図(1/20)

第5章 遺構と遺物

第1節 調査の概要

L字に折れ曲がる調査区のうち、南北部分ではAs-B下の水田跡に伴う畦畔を検出した。東西部分ではAs-Bがほとんど残存せず、As-B以降の溝1条（1号溝）を検出した（第6図）。ピット2基もAs-B以降のものである。また調査区西壁断面では、As-B混土より上位にAs-Aを覆土とする断面逆台形の溝状遺構が連続して検出されており、As-A低下後への復旧溝と考えられる。

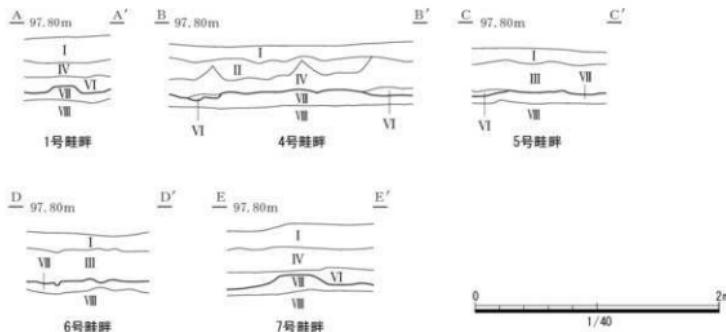
水田跡の調査終了後に、調査区南端にトレンチを入れ、As-Bより下の土層を確認した。そこではHr-FAの二次堆積層やAs-C混黑色土が確認された。1号溝の肩部でも同様の堆積がみられることから、これらの土層が調査区全体に広がっているとみられる。

遺物は水田面上から古代の土器片が、1号溝からは古墳時代～中世の土器片が少量出土している。

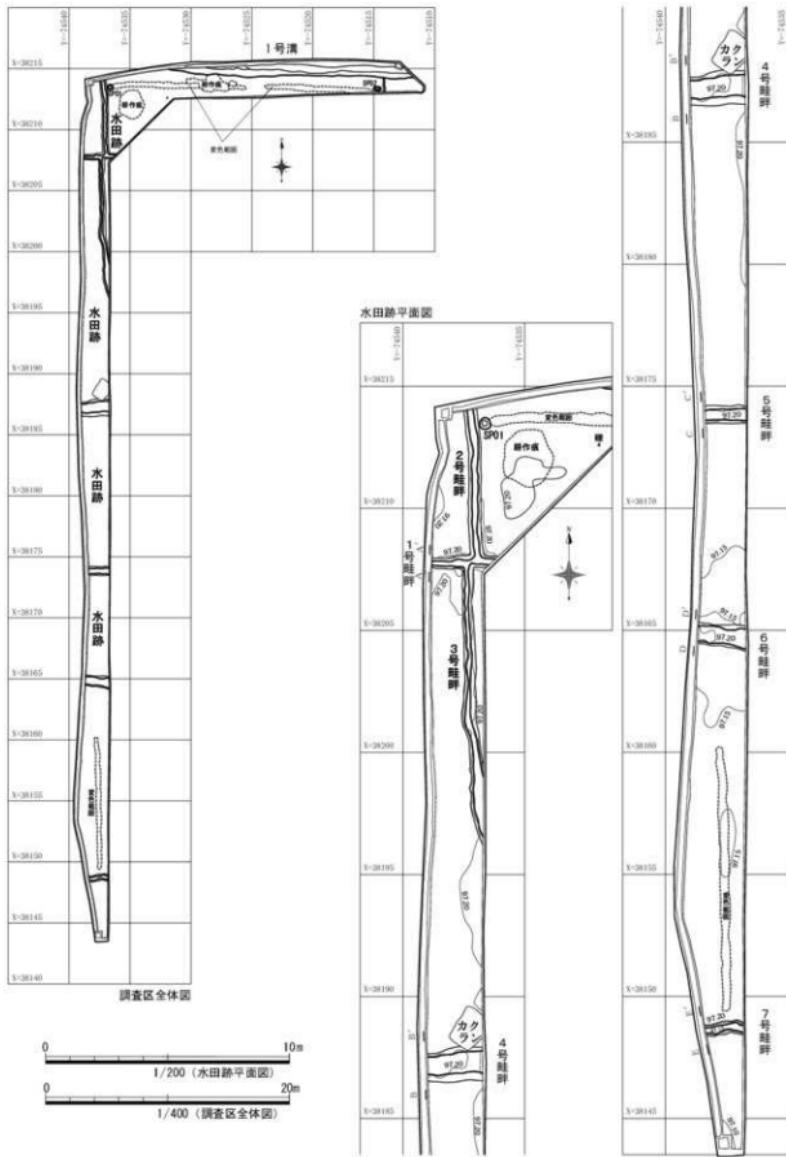
第2節 水田跡

As-B下水田跡（第5・6・8図、P.L. 2・3）

As-B(VI層)の直下で検出した平安時代末の水田跡である。南北方向2条、東西方向5条の畦畔（1～7号畦畔）と水田面を確認した。畦畔はほぼ東西南北に沿っているが、2・3号畦畔はざく西へ、6号畦畔はざく北へ振れている。畦畔の規模は、2・3号畦畔と1・7号畦畔が下幅51～57cmと狭く、5・6号畦畔は下幅72～94cmである。東西方向の4号畦畔は下幅143cmで規模が大きい。畦畔の高さは、頂部をAs-Bに覆われる1・7号畦畔で6～12cm、頂部を削平された4号畦畔では9cmである。畦畔上面は足跡状の凹凸があるが、7号畦畔だけは凹凸なく平坦である。調査区北東部には南北方向の6cm程度の段差があり、畦畔の痕跡の可能性がある。水口は確認されなかった。水田の耕作土であるVII層は概ね10cmの厚さがあるが、南ほど薄くなる傾向があり、7号畦畔以南では3cm程度の場所もある。



第5図 水田跡断面図



第6図 調査区全体図及び水田跡平面図

水田面は全容のわかる区画はないが、南北幅が分かるのは1・4号畦畔間で20.0m、4・5号畦畔間で12.3m、5・6号畦畔間で8.3m、6・7号畦畔間で15.6mである。東西幅は2号畦畔と北東部の段差間で22.7mである。水田面の標高は北端の97.20mから南端の97.10mまで緩やかに下がっている。水田面には足跡状の凹凸が散見される。調査区北側では耕作痕と思われる、やや深さのある凹凸が集中する範囲が2箇所ある。また、As-Bの上面では帯状の変色範囲が2箇所確認され、鉄分が沈着したように赤茶けている。As-B降下以後の水田跡に伴う畦畔の痕跡の可能性があり、畦畔の方向性はAs-B下水田跡を踏襲している。

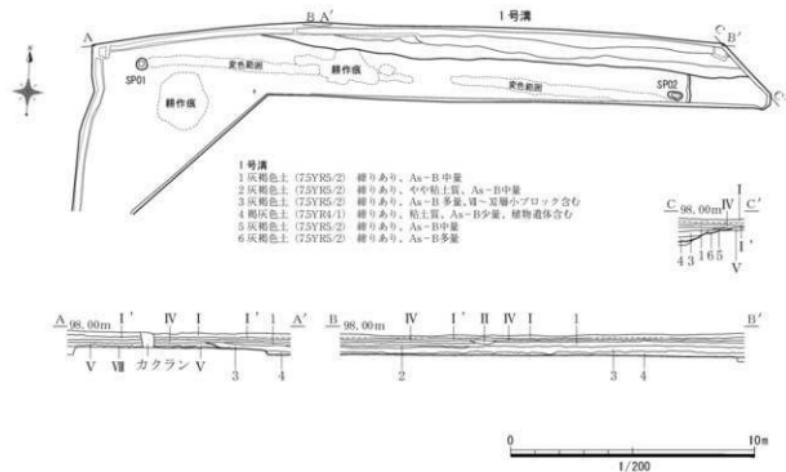
水田面からは、古代の土師器坏、須恵器坏・壺の小片が出土したほか、2号畦畔の東5.1m地点では15cm大の礫が出土した。須恵器壺(5)は1号溝出土の破片と接合したものである。

第3節 溝

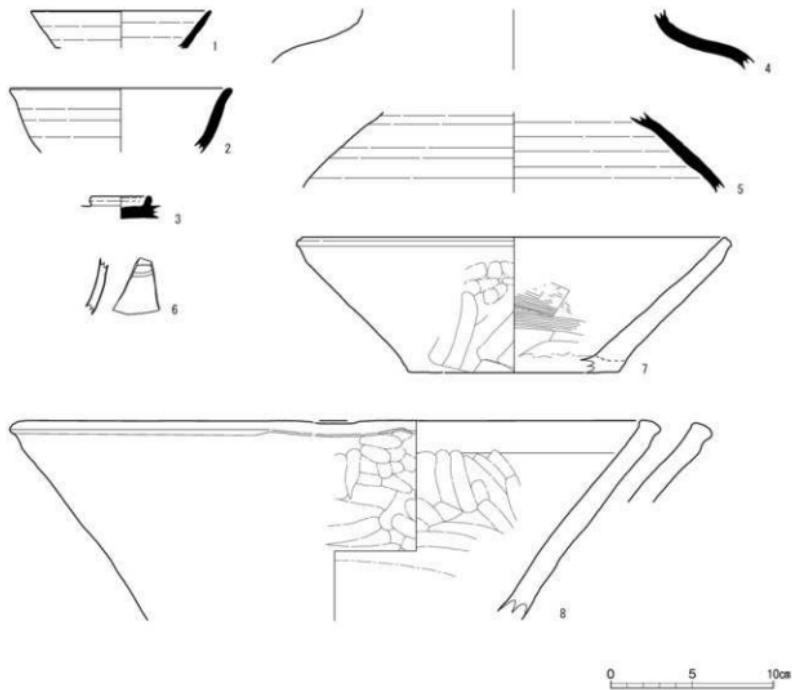
1号溝（第7・8図、PL. 2・3）

1号溝は調査区北壁にかかる東西方向の溝である。溝の北辺は未検出であり、南辺も溝の底面まで達していない。As-B混土(V層)の上面から掘り込まれている。南辺の方位はN-88°-Wを示すが、西端はやや北へ向いている。上幅は14m以上、深さは75cm以上である。断面形は緩やかに下がったあとに急角度で落ち込む。覆土はAs-Bを含む灰褐色土が主体となり、中層にはⅦ～XI層のブロック土が含まれる。下層は粘土質で、植物遺体を少量含む。

溝からは古墳時代後期の土師器坏、古代の土師器坏・壺、古代の須恵器坏・碗(2)・蓋(3)・壺(4)・壺(5)、中世の青磁(6)・瀬戸美濃焼鉢(7)・軟質陶器片口鉢(8)、馬齒(PL.3)が出土し、いずれも小片である。



第7図 1号溝平面図・断面図



第8図 出土遺物図

番号	出土 遺構	器種	法量(cm) (測定値)(推定値)	①焼成・色調(内・外) ②輪・穴・溝存	成・整 形 法 の 特徴	出土場所
1	水田面	埴輪部 环	口径 底径 壁高 [11.1] — [2.3]	①良好 ②灰白 25Y7/1, 灰白 25Y7/1 ③石英, 白色粒 ④環部一部 1/12	外面：口縁部～体部ロクロ彫形 内面：口縁部～体部ロクロ彫形	引領点上
2	1号溝	埴輪部 瓶	口径 底径 壁高 [12.5] — [4.0]	①良好 ②灰白 25Y7/1, 灰白 25Y7/1 ③石英, 白色粒 ④環部一部 1/12	外面：口縁部～体部ロクロ彫形 内面：口縁部～体部ロクロ彫形	覆土一括
3	1号溝	埴輪部 壺	— 口径 底径 壁高 [14] — [4.0]	①良好 ②黄灰 25Y6/1, 灰白 N7/ ③白色粒, 黑色噴出物 ④環部 1/12	外面：つまみ～頭部ロクロ彫形 内面：頭部丁寧なナデ つまみ押印, 頭部外側に自然軸(重ね焼き窓)	覆土一括
4	1号溝	埴輪部 壺	— 口径 底径 壁高 [16] — [4.0]	①良好 ②灰 N5/—, 灰 N4/ ③白色粒, 黑色噴出物 ④環部 1/12	外面：頭部ロクロ彫形 内面：頭部丁寧なナデ 頭部外側押印(重ね焼き窓)、頭部～肩部外側降灰	覆土一括
5	水田面 1号溝	埴輪部 豆	— 口径 底径 壁高 [49] — [4.0]	①良好 ②灰灰 50E6/1, 灰 N5/ ③白色粒, 黑色噴出物 ④環部 1/6	外面：口縁ロクロ彫形 内面：口縁部ロクロ彫形 肩部外側降灰	引領点上及び 覆土一括
6	1号溝	青磁 碗	口径 底径 壁高 [34] — [3.4]	①良好 ②オリーブグリーン 10Y3/2, オリーブ ③灰 10Y5/2 ④黑色粒 ⑤化粧 1/12	外面： 内面：	覆土一括
7	1号溝	漆戸・美濃 漆戸	口径 底径 壁高 [36.7] [13.0] [8.4]	①良好 ②黒 7.5Y8/4, ぶい地 7.5Y5/4 ③石英, 黑色噴出物 ④環部一部 1/12	外面：口縁部拂ナデ, 体部上半部頭圧痕, 体部下半ヘラナデ 内面：口縁部拂ナデ, 体部下半拂り印 底部内部に自然軸	覆土一括
8	1号溝	軋質陶器 片口鉢	— 口径 底径 壁高 [12.0] — [12.3]	①焼成品 ②灰 5Y5/5, 灰 SYR6/6 ③石英, チャート, 白色粒 ④口縁部一部 1/8	外面：口縁部拂ナデ, 体部頭圧痕・ヘラナデ 内面：口縁部拂ナデ, 体部上半部ナデ・下ハラナデ 口縁部内外面拂付着	覆土一括

第2表 出土遺物観察表

第6章 調査成果

今回の発掘調査では、平安時代末の水田跡と中世の溝に関する成果を得た。

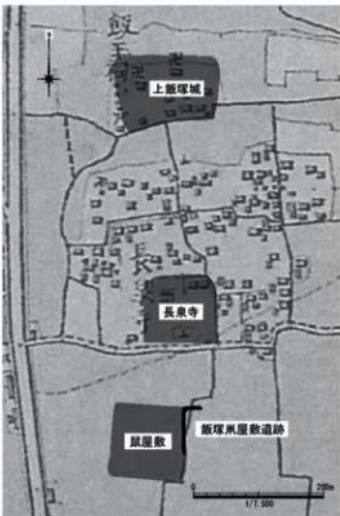
平安時代末の水田跡は、飯塚西金井遺跡・飯塚雁田II遺跡・飯塚大道東遺跡など、本遺跡と同じ後背湿地に立地する遺跡で検出されていた水田跡に連なるものと考えられる。この水田跡は、後背湿地の下流側にあたる飯塚大苗代遺跡や飯塚西金井II遺跡など、微高地に分類される遺跡においても検出されており、相当の広がりが想定される。大八木水田遺跡や並榎地区的遺跡のような詳細な条里区画の検討には至っていないが、本遺跡の畦畔が東西南北の方位に沿うことや周辺の地割の様子から、当地にも条里区画が存在した可能性は十分に考えられる。長泉寺の南辺を東西に往來する道路は、並榎北遺跡で想定された条里区画に沿っているが、本遺跡の4号畦畔はその道路から南へ約110mの位置にある。4号畦畔の幅が1.43mと突出して大きいことから、4号畦畔が条里区画の東西大畦畔になる可能性を指摘しておきたい。本遺跡の水田跡の扱い手としては、北東に隣接する微高地上にある飯塚村内遺跡や飯塚十二前遺跡の古代集落が想定される。

調査区南端でAs-B下水田跡より下の土層を確認したところ、Hr-FAの二次堆積層やAs-C混土層が認められた。調査区北端の1号溝の断面でも同様の土層が確認された。本遺跡と同一の後背湿地に立地する飯塚雁田II遺跡や飯塚大道東遺跡では、Hr-FA下ないしHr-FA洪水層下の水田跡が検出されていることから、本遺跡周辺においても同様の水田跡が存在する可能性がある。古墳時代後期の土師器片が1号溝に混入していたことも、その可能性を示している。As-C混土層下水田跡の検出も含め、今後の調査では注意が必要であろう。

中世では、溝1条を検出した。1号溝は、調査区外にかかるため全容が明らかではないが、東西方向に延びる規模の大きな溝である。少量ながら16世紀代の遺物が出土し、調査区西隣に想定されている16世紀代の館跡「鼠屋敷」の存在を考えれば、鼠屋敷と同時期の溝になる可能性が高い。鼠屋敷は、内郭を北東隅にもつ複郭の方形館で、ほぼ方一町の規模である。鼠屋敷の北西に隣接する墓地には中世の五輪塔があるとされる。1号溝は、この鼠屋敷の北辺に沿っており、館跡の北東隅に接続する可能性がある。調査区と鼠屋敷との間を南流する現在の小規模な用水路は、鼠屋敷の東辺の名残りと考えられる。この用水路脇の道は明治時代の地図に描かれており(第9図)、調査区付近で屈曲したのち、北側にある長泉寺の東辺を通過しながら、上飯塚城南辺中央へ延びている。鼠屋敷を意識した道の曲り方や方一町の地割に、既に消滅した鼠屋敷の存在を窺うことができる。1号溝と同じ位置に現代の用水路があることも、周辺の地割が中世まで遡る可能性を示している。なお、調査区は鼠屋敷からみて鬼門の方角にあたるが、1号溝からは馬歛が出土しており、馬を犠牲とした雨乞いなどの儀式が行われたことも考えられる。

引用・参考文献

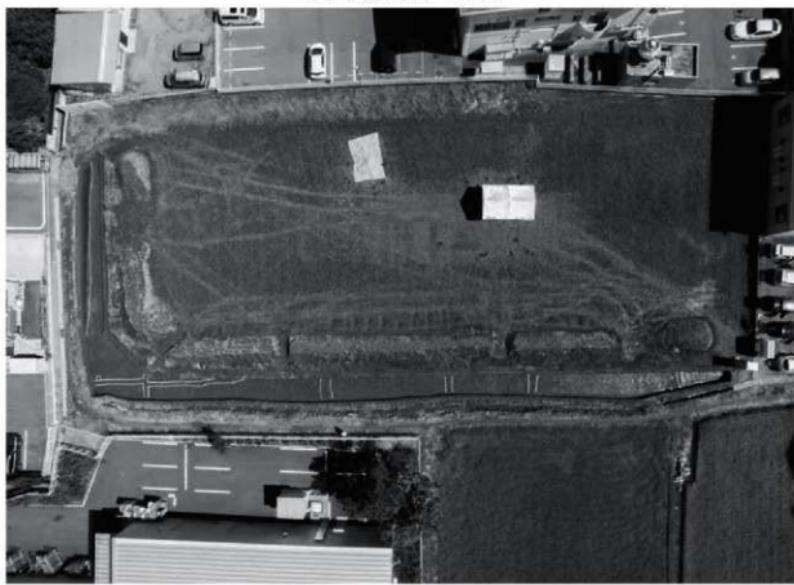
- 山崎一 1979 「群馬県古城柵跡の研究 捕遺篇上巻」
- 高崎市教委 1996 「並榎北Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・V遺跡」
- 高崎市 1996 「高崎市史資料編3 中世I」



第9図 飯塚鼠屋敷遺跡周辺の中世城館
(明治前期測量2万分1フランク式彩色地図
(902群馬県上野郡高崎市高崎駅)を加工)



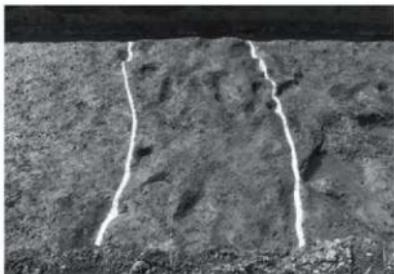
調査区遠景（空撮、西から）



調査区全景（空撮、左が北）



水田跡 1～3号畦畔全景（北から）



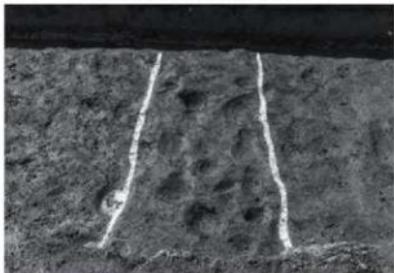
水田跡 4号畦畔全景（東から）



水田跡 5号畦畔全景（東から）



1号溝全景（東から）



水田跡 6号畦畔全景（東から）



水田跡 7号畦畔全景（東から）



水田跡1号畦畔土層断面（東から）



水田跡7号畦畔土層断面（東から）



水田跡下土層断面（東から）



出土遺物（1号溝出土馬歯）



出土遺物（1号溝及び水田跡）

抄録

フリガナ	イイヅカネズミヤシキイセキ							
書名	飯塚丸屋敷遺跡							
副書名	道路築造に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第431集							
編著者名	常深尚							
編集機関	有限会社毛野考古学研究所							
編集機関所在地	〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1							
発行機関	有限会社毛野考古学研究所							
発行年月日	西暦2019年3月25日							
ふりがな 所 収 遺 跡	ふりがな 所 在 地	コード		北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°	°			
飯塚丸屋敷遺跡	群馬県高崎市 飯塚町字丸屋敷	102020	747	36° 29' 29"	139° 00' 11"	20180918 ~ 20180928	260 m ²	道路築造
所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 壕	主 な 遺 物			特 記 事 項	
飯塚丸屋敷遺跡	生産 城館	平安時代 中 世	水田跡 1面 溝 1条 ピット 2基	土師器、須恵器 青磁、瀬戸美濃、軟質陶器、馬具			Aa-B 軽石に埋没した水田跡、「丸屋敷」に関する中世の溝を検出した。	

高崎市文化財調査報告書第431集

飯塚丸屋敷遺跡

2019年3月22日印刷

2019年3月25日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 電話 027(265)1804

発行／有限会社毛野考古学研究所

印刷／中村印刷工業株式会社

〒930-0039 富山県富山市東町2丁目3-22 電話 076-424-4616